

報 告 書

(西川 班)

開 催 日 時	令和元年 10 月 10 日 (木) 午後 7 時～8 時 30 分	
開 催 場 所	和田公民館	
出 席 議 員	澁谷 幹雄、西田 清久、岡本 正友、飛野 弘二、 西川 真午、(議長) 川神 裕司	
	司会者	西川 真午
	ファシリテーター	澁谷 幹雄、西田 清久、岡本 正友、 飛野 弘二
	記録者	西川 真午
参 加 人 数	27 人	
主な要望・提言等	<p>【健康・福祉・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の受診について、地元の保健師さんや企業の方も地域や社員の方への啓発を頑張っているのので、市民は自分の健康のために積極的に受診して欲しい。 ・健康づくりの取組に対して、男性の参加が十分でない。 ・診療所の予約が取りにくい。 ・脚が弱っていてもまチャレの 8 千歩は無理。 ・子どもたちがしっかり身体を動かす教育を望む。 ・高齢者の元気の源である『集まる』、『自分たちのしたいことをする』ができる地域になるとよい。 ・高齢の男性を元気にするにはどうしたらいいのか。 ・検診率の低下は交通手段が無いことが原因。 ・近い将来、町に病院が無くなることを危惧。 ・図書館が遠いのでなかなか行けない。タブレットなどで本が読める手法を考えて欲しい。 ・健康のために、米を見直して昔ながらの食事をする。 ・家族で話をしながらの食事が人づくりにつながる。 ・歴史資料館を作るのであれば、学校教育へ予算を使ってはどうか。 ・小中学校の教育に IoT を取り入れて欲しい。 ・お魚センターの進捗状況は。 	

<p>主な要望・提言等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を他校に 1 週間程度出張させて交流を図ると良いと思う。 ・学校が減り地域で子どもを育むという状況ではなくなってきた。地域と学校のつながりをもっと増やすべき。 ・来年度から小学校でプログラミングの授業が開始され、教員の負担が増えて子どもたちと向き合う時間が減少ならば子どもたちにとってはマイナスとなる。プログラミングの授業を外部委託して教員の負担を減らすことが必要。 ・在宅介護が困難な家庭が多い。 ・高齢化により老々介護が増えている。 ・男性の独居が心配である。 ・介護保険料が高い。母(91歳)の年金額に比べて保険料が高いと思う。 ・敬老入浴券について、使用しない人もいるのももう少し考えて欲しい。 ・敬老福祉乗車券を浜田～広島で使えるように。 ・若い人が優遇されてきているので良いことだと思う。 ・住民が地域の行事に束縛され過ぎている。ある程度自由度が無いと地域に入って来ない。 ・地域の民俗資料の維持管理が必要。 ・旭歴史公園の環境整備を望む。 ・遺跡、古墳群、重富廃寺の整備、保存を望む。 ・歴史資料館を学校の歴史の授業に活用すべき。 ・歴史資料館のようなハコモノの建設よりも、インフラ整備にもっと力を入れるべき。 ・歴史資料館の反対意見に対する十分な説明が必要。 ・歴史資料館は一度地域民より反対されたのにまた建設するのはどうかと思う。もっと地域民の話を聴いてほしい。 ・歴史資料館については公民館や廃校を倉庫として利用してはどうか。映像でだれでも見れるようにしては。 ・神楽殿についてはどうなっているのか。
-----------------	--

<p>主な要望・提言等</p>	<p>【安全・安心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支障木の処理に困っている。 ・県道に出るまでの道が狭くて困っている。 ・市道管理の金額を増やしても、人員がそろわない。 ・集落 35 軒のうち 78 歳以上が 22 人もいて、河川の草刈りが難しくなっている。 ・空き家周辺の草刈り等の環境整備が必要。 ・空き地を市の管理で使うことができないか。 ・草刈を若者にお金を払ってやってもらってはどうか。 ・支線の除雪が遅いので、除雪車を効率よく回して対応して欲しい。 ・狭い市道は空き家も多く除雪が困難なので、融雪装置の設置を望む。 ・除雪を行う地元業者へ行政から資格取得の助成金と出してもらっているのを助かるが、従業員が高齢化しているので、資格を取得しても働ける期間が短い。 ・地球温暖化による災害が多くなり、過疎化によって住民が減っている状況なので、多様な防災対策が必要になる。 ・架空線は地下に埋設すべき。公共事業にもなる。 ・地域に若者がいないのが問題。 ・人口減少で救助体制や防災の仕組みが維持できない。 ・高齢世帯の除草、除雪のサポートのあり方について考えて欲しい。 ・移動手段の確保に不安がある。 ・若い世代が地域のことに無関心。 ・子育て世代の産後、子育て中のケアについて、気兼ねなく安心して頼めるサポート体制が必要。 ・災害時の早めの避難を促すため、避難所を公民館ではなくホテルにしてはどうか。 ・後継ぎがないため、土地の維持について不安。 ・空き家のものが風で飛来したり、猫のすみかになっていたりして困っている。
-----------------	---

<p>主な要望・提言等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路沿いの空き家の屋根からの落下物があり危険。 ・家の減築に対する助成を望む。 ・税金を物納させてもらいたい。 ・建設工事で県外業者の不審な車両を見かけ、子どもの通学に不安があった。(社会復帰センター建設中) ・鍵をかけない家が多いので防犯上問題。 ・イノシシが法面を掘って地盤が弱くなっているので、災害時に一気に崩れそうで怖い。
	<p>【産業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の荒廃が進んでいる。農・地・水制度は、地区単位の縛りがあり使いにくい。 ・田んぼを作る人がいない。仕事(会社)と農業を両立できる制度があるといい。 ・山と海の物々交換ができるといい。市内貨幣を作って市内のものを交換する。 ・草刈を有料でできる制度を作り、気軽に頼めるようにしてはどうか。 ・地域の人には自立心が強いのでボランティアに頼ろうという気が少ない。 ・スマート農業を推進して欲しい。 ・営農者は60代、70代が主で、5～10年後が不安。 ・農業で儲かる人は少ない。 ・農業の担い手不足の解消は補助金だけでは解決できない。農業を継続させる仕組みづくりをして欲しい。 ・稲刈りの乾燥ともみすり、草刈りに人手がいないで苦労している。 ・草刈を刑務作業でできないか。 ・イノシシの天敵で駆除を考えては。 ・森林環境譲与税で里山を作れないか。

<p>主な要望・提言等</p>	<p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祭りの継続のための人材が不足している。 ・地域の存続のために、住民間の声掛けや共同意識を高めることが必要。 ・地域文化の継承が必要（仏事のお膳、神楽、冬の保存食） ・本物の良さを伝えることが重要。（塗りの椀等） ・地域の役員を早くから若い人へしてもらうのは負担が大きいのので、ある程度の年齢になってから交替するように先輩たちが頑張る。 ・人口減少に対応するため地域組織の見直しが必要であるが、集落の合併、再編問題は調整が難しい。 ・地区まちづくり推進委員会については、地域住民の認識が不足しているので、詳しい説明が必要。 ・町内会は、世帯数の減少による会費の減少、役員のなり手不足により存続が不安。 ・まちづくり推進委員会が地域行事の運営をしているが、役員の負担が大きい。 ・『和の会』は、非耕作地の改善のためエゴマの栽培を始めようとして発足したが、なかなか参加者がいなくて困っている。 ・地域組織の統廃合が必要。 ・交通手段が確保されないと公民館活動ができない。 ・地域を残すために交通手段の確保が必要で、そのために地域に1人運転者を登録して利用する。 ・デマンドバス、移動販売、自治会輸送などを検討して欲しい。 ・移動販売車の充実を望む。 ・バス停が遠いため公共交通の利用者が減っている。 ・空バスの改善が必要。 ・ゴルフ場のカートを利用した移動手段ができないか
-----------------	--

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

令和元年 10 月 18 日

浜田市議会報告会規程第 9 条第 1 項の規定により提出します。

西川 班

代表者 西川 真午